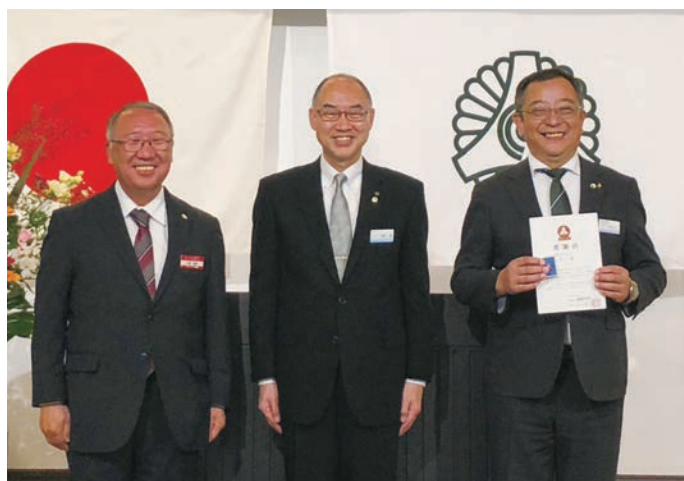




かけはし



令和6年度岩手県倫理法人会「年度はじめ式」



令和6年度 岩手県倫理法人会 活動方針……2

令和6年度岩手県倫理法人会「年度はじめ式」開催……3

単会会長・専任幹事紹介……4

岩手県倫理法人会令和6年度会員大会……6

令和6年度委員会の紹介……7

倫理との出会いと今／万人幸福の葉……8



明るく 楽しく ためになる 倫理法人会

ひ なた かず ゆき
会 長 日 當 和 孝

3年前に発生した新型コロナウイルス感染症も、本年5月には「第5類」に格下げとなり、日常を取り戻しつつあります。この間、WEB会議等の新しい生活様式を学ぶことができました。その反面、対面で会えない・集えない・寝食を共にできないことの寂しさも体験しました。倫理法人会は、モーニングセミナーに代表されるように、同じ志を持った会員が一堂に会し、場を作り、共に学び、実践することを活動の基本としています。令和6年度は、下記に示す活動を精力的に行い、「明るく 楽しく ためになる倫理法人会」とします。

1. 令和6年度倫理法人会活動方針重点事項を強力に進めます

- ①「人は鏡」の実践を通じて、経営者の実践力の向上を図り同志の輪を拡げます。
- ②「会員の増大」と「新入会者の定着」により、「経営力を高める」実践者を増大します。
- ③「委員会制度の安定と定着」により、「普及活動を強力に支援」します。

2. 何のための活動か

「純粹倫理を世の中の常識にしていく！」

地域社会の発展や日本創生、その為の普及です。まず会員となって学び、企業を、家庭を、より良くしていき（倫理体験）、その体験談を周囲に伝えていきましょう。（普及）※ボランティア活動ではなく倫理運動です。

3. 活動指針

- ①いい会をめざします。⇒ 明朗・愛和・喜働が正しく実践されていること
- ②「人は鏡」を共通の実践として推し進め「倫理的判断力」を磨きましょう

岩手県倫理法人会役員



副会長
佐藤 功



副会長
小川 隆夫



副会長
佐々木正則



幹事長
角田 直樹



副幹事長
中村夢美子



副幹事長
伊藤 峻



事務長
菊池 奨



副事務長
佐藤 美幸



相談役
又川 俊三



相談役
菊池長一郎



相談役
三田 望



相談役
佐々木正博



相談役
及川 元一



③「輝く倫理法人会」となるための以下に取り組みます。

- 1) モーニングセミナーの活性化
- 2) 活力朝礼の普及向上
- 3) 倫理経営基礎講座 受講の向上
- 4) 倫理指導受講の向上

④倫理法人会活動を通じて、良き経営者・家庭人・地域のリーダーを目指します。

4. 地区制(長)について(令和6年度より本格的に実施)

単会会長の良き伴走者となります。

5. 普及目標

令和6年度 1,300社

6. 令和6年度岩手県倫理法人会スローガン

企業に倫理を 職場に心を 家庭に愛を

希望を高く 掲げよう 自ら動こう 1,300社 新たな時代を 突き進もう!

令和6年度

岩手県倫理法人会 「年度はじめ式」開催

9月8日(金)、令和6年度 岩手県倫理法人会 年度はじめ式が盛岡市『アートホテル』で行われました。国歌斉唱後に、一般社団法人倫理研究所 那須隆理事より辞令交付がありました。

辞令交付の後には、会長引継ぎ並びに感謝状贈呈、参事表彰、倫理17000認定証授与が行われ、岩手県倫理法人会日當和孝会長の挨拶。日當新会長は11代目の会長としての抱負や、「明るく、楽しく、ためになる倫理法人会」についてお話しがありました。

その後の決意発表では、地区ごとに単会会長が壇上で決意発表。決意発表した決意文を各地区長に渡しました。

一般社団法人 倫理研究所 那須隆理事からの式辞を頂戴して閉会。

懇親会では70名の参加があり、大いに盛り上がりました。この人数参加と盛り上がりは、今年度の力強いスタートを感じさせるものでした。

(文責 遠藤哲也)



菊池長一郎参事



倫理17000認定証授与



県央地区



県南地区

単会会長・専任幹事紹介

令和6年度の各単会の会長ならびに専任幹事を紹介します。

また、活動方針 **明るく、楽しく、参加型で、ためになる** 実現に向けて、単会会長の決意発表を紹介します。



県央地区長 阿部 修自 県央副地区長 藤原 則夫 県南地区長 小川 廣文 県南副地区長 松田 昇 沿岸地区長 菊池 一彦 沿岸副地区長 佐々木千幸

盛岡市倫理法人会

《重点活動目標》
皆が気軽に集え、学べるランチセミナーの毎月開催を重点活動とします！

《実践目標》
中間目標 136社 年度末目標 140社



会長 鈴木 幸江 専任幹事 岩崎 純

盛岡みなみ倫理法人会

《重点活動目標》
MSを活性化し、参加者が元気になるMSにします。未会員の方にも参加して頂き、楽しく交流できる場をつくりまします。

《実践目標》
中間目標 66社 年度末目標 66社



会長 水本 静夫 専任幹事 千葉 伸行

二戸市倫理法人会

《重点活動目標》
明るく楽しいモーニングセミナーを開催し参加人数15名(参加率30%)を重点活動とします！

《実践目標》
中間目標 55社 年度末目標 60社



会長 足立 裕 専任幹事 小軽米健太

紫波・矢巾倫理法人会

《重点活動目標》
女性会員3人増強するとともに、役員1人1社声掛け運動によるMS参加率30%と年4回の会員の親睦交流を重点活動とします！

《実践目標》
中間目標 100社 年度末目標 105社



会長 白澤 勉 専任幹事 村松 竹美

花巻市倫理法人会

《重点活動目標》
夜版モーニングセミナーを開催し、倫理に触れるきっかけづくりに取り組み、会員拡充、そして仲間を増やしていくことを重点活動とします！

《実践目標》
中間目標 170社 年度末目標 174社



会長 晴山 正基 専任幹事 戸田 誠治

奥州市倫理法人会

《重点活動目標》
純粋倫理の良さと、倫理経営を奥州に広くお伝えできるよう、奥州市各地域でのMS、ナイトセミナーの開催を重点活動とします！

《実践目標》
中間目標 55社 年度末目標 58社



会長 及川 健 専任幹事 仲口 眞二

一関市倫理法人会

《重点活動目標》
魅力あるモーニングセミナーを開催し、倫理の良さを多くの方々に広げていくことを重点活動とします！

《実践目標》
中間目標 105社 年度末目標 105社



会長 菅原 行奈 専任幹事 鈴木 哲

北上市倫理法人会

《重点活動目標》
「みんなを元気に！自分も元気に！ワンチーム」のスローガンのもと、明るく楽しみながら一体感を感じられ参加したくなる行事の開催を重点活動とします！

《実践目標》
中間目標 166社 年度末目標 170社



会長 伊藤 正治 専任幹事 菅原かずみ

遠野市倫理法人会

《重点活動目標》
会員と、ゲストの会社がより繁栄していくために、MSや経営者の集い、イブニングセミナーの参加人数を決め、経営者が楽しく仲間づくりできることを重点活動とします！

《実践目標》
中間目標 115社 年度末目標 115社

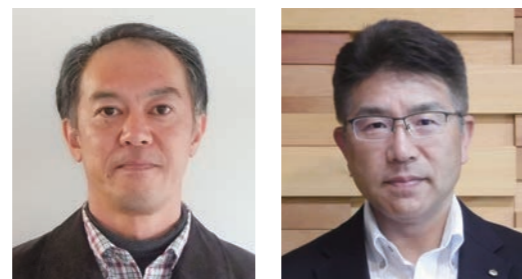


会長 唯是 光裕 専任幹事 赤坂 康紀

久慈市準倫理法人会

《重点活動目標》
・経営者の集いや職場の教養、100日実践を通じて行動を変えます。・倫理法人会の学びを通して、経営者としてさらに成長

《実践目標》
中間目標 64社 年度末目標 64社



会長 佐藤 仁昭 専任幹事 雷 哲也

釜石市準倫理法人会

《重点活動目標》
会員間で連携を取り、新しい仲間作り、を重点活動とします！

《実践目標》
中間目標 55社 年度末目標 60社



会長 木村 仁寿 専任幹事 平松眞紀子

宮古市倫理法人会

《重点活動目標》
1年間「連鎖」を合言葉に、通って得た！を実感できるMSの「場」を追求し続けます。役員の役割分担を明確化し、常に全員共同体で伸び伸びと倫理活動することを重点活動とします！

《実践目標》
中間目標 97社 年度末目標 101社



会長 宮澤 範江 専任幹事 新居 克洋

けせん倫理法人会

《重点活動目標》
会員企業への訪問を毎月欠かさず実施する事を重点活動とします！

《実践目標》
中間目標 118社 年度末目標 120社



会長 志田美智子 専任幹事 小松 英子

岩手県倫理法人会 令和6年度会員大会



日當和孝会長



角田直樹幹事長



菊池奨事務長



中村一法監査

去る10月17日(火)、岩手県倫理法人会令和6年度会員大会が遠野市の『あえりあ遠野』において、66名の皆さんに参加いただき行われました。

日當和孝会長からは、令和6年度の方針「明るく、楽しく、ためになる会」についての内容や指針の発表があり、いい会を目指して輝く倫理法人会となり、1300社達成となるよう頑張りましょうと挨拶いただきました。

その後、令和5年度事業報告を角田直樹幹事長、令和5年度決算報告を菊池奨事務長、監査報告は中村一法監査からそれぞれ行われました。

その後、角田直樹幹事長から令和6年度活動計画が発表され、続いて、県の各委員会からは委員会計画発表、菊池奨事務長からは予算発表がありました。最後に「いわて倫理29(ふきゅう)賞」の発表と記念の盾の授与が行われました。これは普及に尽力された会員に対して行われるもので、今年度が第1回目となります。対象は紹介者となり入会した現在籍企業が20社以上の方となります。

懇親会では60名の参加があり、5単会からの余興もあり大いに盛り上がりました。

得点数	会員名	所属単会
34	及川 元一	遠野市
29	宮澤 俊次	盛岡みなみ
28	又川 俊三	盛岡市
27	菅原 正行	一関市
22	菊池 長一郎	宮古市
22	三田 望	花巻市
22	中村 久美子	二戸市
20	米谷 直	けせん



三地区長から

令和6年度 委員会の紹介

モーニングセミナー委員会



委員長 久保 忍
(盛岡市倫理法人会)



副委員長 上野 真司
(二戸市倫理法人会)

朝礼委員会



委員長 工藤 晴香
(盛岡みなみ倫理法人会)



副委員長 山縣 春雄
(紫波・矢巾倫理法人会)

研修委員会



委員長 北田 一郎
(盛岡市倫理法人会)



副委員長 井手 修
(遠野市倫理法人会)

広報委員会



委員長 遠藤 哲也
(北上市倫理法人会)

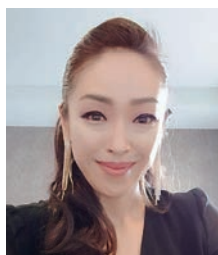


副委員長 佐々木 真人
(花巻市倫理法人会)

女性委員会



委員長 佐々木 富士子
(奥州市倫理法人会)



副委員長 佐藤 和美
(宮古市倫理法人会)

キャリア委員会



委員長 佐々木 勝智
(北上市倫理法人会)



副委員長 宮澤 俊次
(盛岡みなみ倫理法人会)

倫理塾委員会



委員長 山内 道治
(宮古市倫理法人会)



副委員長 佐藤 隆一
(宮古市倫理法人会)

青年委員会



委員長 米谷 直
(けせん倫理法人会)



副委員長 佐々木 朋和
(一関市倫理法人会)

しきなみ短歌会

今回の短歌

震災後

なにもなかったかのように

更地のすみにタンポポ

ポ一輪
(坂本静子さん)

倫理との出会いと今



紫波・矢巾倫理法人会 広報委員長 昆 浩司

倫理に出会い入会するきっかけは、商工会や不動産関係の会など他にも様々なところでご一緒させていただく機会が多い当時の宮澤俊次会長にわざわざ自宅に来て入会の案内をしていただいたことでした。

初めは、モーニングセミナーで朝早く起きて講話を聴く他に何をしている会なのか全くわからず続けていく理由もなかなか見つけられない状態のまま数年が過ぎました。

紫波・矢巾倫理法人会の広報委員長として広報委員会に出席して、かけはし原稿を書かせていただくことで倫理法人会の一員であることを感じるようになって、このまま会にいても良いのか悩む日もありました。

そんな中で紫波・矢巾倫理法人会の広報誌を作り始めて、ネタ探しの中で職場の教養を使うようになりました。大きな転機になったのが専門学校の授業に使っ

たことでした。学生たちは、アルバイトやインターンの経験はあっても社会の一員として働いた感触が乏しく、社会に出ることへの不安でいっぱいの女子学生などに職場の教養を読ませると10代の若者へのエールとも思える内容が盛りだくさんでした。

外国から来て日本語学校に通い専門学校で日本企業などに就職を目指す留学生たちの授業で、本文の全ての漢字にかながふってあり、日本語検定合格も目指している留学生たちの心を職場の教養がつかんで、外国人たちの生きたテキストになっています。

これから日本も外国人労働者を受け入れる環境が広がる中で、職場の教養がこれほど留学生たちの心を掴むとは思ってもみませんでした。職場の教養は、学生向けのテキストとして国籍を問わず日本で働くことを望む若者の道しるべになるのではないかと思います、私には無くてはならない重要なアイテムです。

『万人幸福の業』

明朗は健康の父、愛和は幸福の母（明朗愛和）

一人の明朗な心は、その人の肉体健康の元であり、家庭健康の中心であり事業健康の根源である。打ち沈んだ、暗い、

よわよわしい心の持ち主は、きっと体が弱い。（中略）

明朗の心、一日も一分も曇らしてはならぬのは、人の心である。朝はほがらかに働き、夜はほがらかに休む。昨日も明るく、今日も明るく、明日も明るい。

家の中も、工場も役所も、電車も汽車、朗らかに、明るく、そして町が、国が、地上が、春のようにほがらかに、秋のように明るく、健康に伸びる、実る、栄える。（中略）

人を生み、育て、やしなう、これは親の愛である。家庭をつくり、社会をいとなみ、人の世の幸福と文

化を生み出すもとは、人の愛である。

「親切は社会と社会をつなぎ合わせる金の鎖である（ゲーテ）」

「愛と信頼とは万人の心霊にとって唯一の母乳である（ラスキン）」

愛の乳は、出しても尽きる時がない。いや、出せば出すほど、よいものが多量に出る。愛のパンは、いくら分けてもなくなることはない。分ければ分けるほど、かさが増えて、あまりができる。（中略）

自然は調和の姿である。宇宙は大和の相である。春の花、夏の栄、秋の実、冬の充実、一つとして和の姿でないものはない。（中略）

愛は万物を産み育て、和は万事を結実成就させる。

以前、清水寺の森清範貫主の講演で「もったいない」というお話を聞いた。

「もったいない」という言葉は日本古来の言葉であるが、貫主曰く『もったいないとは単に物を無駄にしなれば良いというものではない。物の中に命があるからこそ“もったいない”のである』。

全てのものに命が宿っているからこそ、お米一粒でも大切にしよう、敬いながら頂戴すること感謝しなければならぬと言われてきた。けれど、お金さえ出せば何でも手に入る時代となり、命を頂い

ていることも薄れてきている。だから、人の命の大切さも軽んじることが多いのではないだろうか？

今現在もロシアのウクライナ侵攻が続いており、最近ではハマスとイスラエルの報復戦争状態が起こっている。命を大切に思うことは、相手を敬い、尊敬し、尊ぶことである。自分が正しい、自分が良ければ、そんな時代に早くピリオドを打ちたいものである。

奥州市倫理法人会 広報委員長 菊池 達哉